

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年8月19日

【評価実施概要】

事業所番号	0971100144		
法人名	医療法人社団為王会		
事業所名	グループホームあかり		
所在地	栃木県矢板市扇町2-8-34 (電 話) 0287-44-2115		
評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成20年7月10日	評価確定日	平成20年8月19日

【情報提供票より】(平成20年6月13日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年12月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	9 人 10 人	常勤4人(うち兼務1人), 非常勤5人, 常勤換算6.75人 常勤5人(うち兼務2人), 非常勤5人, 常勤換算6.3人	

(2) 建物概要

建物構造	木造
	1階建ての1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	・水道・光熱費—18,000円 ・日用品費—4,500円 ・教養娯楽費—3,000円 ・理美容代、おむつ代、行事代—実費
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (70,000円)	有りの場合 償却の有無	有 (退去時全額返金)
食材料費	朝食	200 円	昼食 400 円
	夕食	400 円	おやつ 150 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(平成20年6月20日現在)

利用者人数	18 名	男性 4 名	女性 14 名
要介護1	7 名	要介護2	6 名
要介護3	5 名	要介護4	名
要介護5	名	要支援2	名
年齢	平均 87.39 歳	最低 75 歳	最高 96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	尾形クリニック
---------	---------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

開設5年目を迎えたグループホームあかりは、地域密着型サービスとしての新たな理念「住みなれた地域の中で、普通の暮らしを支えます」を作り上げ、近隣住民との普段着のつきあいや入居者の個別の要望に応じた支援に力をいれている。入居者の誕生日にはそれぞれの希望を聞いて外出に出掛けている。また、誕生日に入居者の願いを叶えるために「幼なじみを訪ねる機会」をプレゼントしたことによって幼なじみとの交流が復活した事例もある。法人は職員の資質向上のために各種研修派遣や内部勉強会、新人の育成、職員の効果的な配置転換・異動なども積極的に実施し、サービスの質の維持・向上に取り組んでいる。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価後に毎月のミーティングの場で「地域密着型サービスとは何か」をホーム全体で話し合い、新たな理念を作りあげた。入居者が幼なじみと訪問しあうこと、入所したため留守となっている自宅に行ってみること、馴染みの店に食事に行くこと、ドライブがてら今まで生活していた近くを訪れることなど、入居者が今までの暮らしで築いた関係性を断ち切らないような具体的な支援を行っている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価はユニットごとにリーダーが中心となって職員全員で取り組み、ミーティングなどを利用して話し合いながら管理者がまとめた。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は年3回開催していたが、市の担当者から2ヶ月に1回開催してほしいとの意見があり、他の参加者からは「会議や報告書作りが多すぎて本来の介護が疎かになっていないか。運営推進会議は年1回でいいと思う」との意見が出ている。ホームからは、入居状況、事業計画、活動報告、行事のお知らせ、外部評価の報告などを行っている。市の担当者からの意見や地域包括支援センターからの情報提供は少ない。ホームでは他市町村のグループホームの運営推進会議の運営状況を調査し、改善を試みている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	入居者の暮らしぶりや健康状態、行事予定などを月1回発行する「あかりだより」(個人別に作成)で家族に知らせている。また、日常生活、行事の様子を撮ったビデオを家族会の場で上映している。家族の訪問時に意見や要望など尋ねたり、意見箱を設置したり、家族会で意見を聞くなど工夫はしているが、出される意見や要望は少ない。そこで、毎年1回、アンケートを実施し、家族に入居者の満足度を押し量って回答してもらい、その結果を家族にフィードバックしてケアの質の維持に役立てている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 入居者が通っている近所の歯医者さんが、子どもと一緒に回覧板をホームに届けに来てくれる。その回覧板を入居者が地主でもあるお隣さんに届けに行く。そのついでにお茶をご馳走になってくることもある。地域に暮らす者としてあたりまえの関係をつくっている。今年も区長さんから地元のお不動さんの縁日に誘われ、また、よく散歩に行く近くのお寺では檀家さんにお茶を振る舞われるなど地域の方々との関係性も更に深まってきている。災害時の協力を得るための挨拶回りも積極的に行っている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設から昨年まで「やすらぎと安心」を理念に掲げ、地域とのかかわりを持ちながら、「みんなでいる安心の場」を作る努力をしてきた。そして更に地域の中で暮らし続けることの支援を明確にするため、職員全員で話し合い「住みなれた地域の中で、普通の暮らしを支えます」という理念を新たに作りあげた。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、理念の中の「普通の暮らしを支える」とは具体的に何をしたらよいか、どのようにしたらよいかを話し合っている。また管理者は入居者の様々な関係性を大切にするように職員に伝えている。その結果、入居者の行きつけの所に行く、友人に会いに行くなど、積極的に外に出る機会をつくり、入居者の要望に個別に対応する機会が多くなっている。また、日常の中であたりまえのように近所に買い物に出かけ、近所を散歩することも多くなっている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	入居者が通っている近所の歯医者さんが、子どもと一緒に回覧板をホームに届けに来てくれる。その回覧板を入居者が地主でもあるお隣さんに届けに行く。そのついでにお茶をご馳走になってくこともある。地域に暮らす者としてあたりまえの関係をつくっている。今年も区長さんから地元のお不動さんの縁日に誘われ、また、よく散歩に行く近くのお寺では檀家さんにお茶を振る舞われるなど地域の方々との関係性も更に深まってきている。近所の人が野菜を差し入れてくれることも多い。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価はユニットごとにリーダーが中心となって職員全員で取り組み、管理者がまとめた。前回の評価後に、毎月のミーティングの場で「地域密着型サービスとは何か」をホーム全体で話し合い、新たな理念を作りあげた。入居者が幼なじみと訪問しあうこと、入居者が入所したため留守となっている自宅に行ってみること、馴染みの店に食事に行くこと、ドライブがてら今まで生活していた近くを訪れることなど、入居者が今までの暮らしで築いた関係性を断ち切らないような具体的な支援を行っている。		

グループホームあかり

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、入居者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は年3回開催していたが、市の担当者から2ヶ月に1回開催してほしいとの意見があり、他の参加者からは「会議や報告書作りが多すぎて本来の介護が疎かになっていないか。運営推進会議は年1回でいいと思う」との意見が出ている。ホームからは、入居状況、事業計画、活動報告、行事のお知らせ、外部評価の報告などを行っている。市の担当者からの意見や地域包括支援センターからの情報提供は少ない。ホームでは他市町村のグループホームの運営推進会議の運営状況を調査し、改善を試みている。	○	運営推進会議の開催回数について参加者の中で意見が分かれたままであるが、運営推進会議がなぜ必要なのか基本に戻って話し合うことを期待したい。運営推進会議がどのような役割を持つかは設置当初に説明されているが、年月を経て設置目的が会議に参加するメンバーに忘れられてきている。原点に戻って、ホームの取り組みを報告し課題を投げかけて話し合い、サービス向上に活かせるような意見の出る場となるように運営推進会議を再構築することを期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者とは、市への提出書類や運営推進会議の会議録を届ける時、市に確認や質問の電話をする時に情報交換をしている。市と連携する機会として事業所から市に要望して、市内のグループホームの連絡会を立ち上げ、交流会の開催に至った。ホームとしては更に市との連携のもとサービスの質の向上に取り組みたいと考えている。	○	市内のグループホームとの連絡会に市の担当者にも積極的に参加してもらい、連絡会を市と同業者も交えたサービスの質の向上につながる話し合いの場として活用することにも期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での入居者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホームでの入居者の暮らしぶりや健康状態、行事予定などを月1回発行する「あかりだより」（個人別に作成）で家族に知らせている。また、家族の訪問時に日常生活の様子や金銭管理の報告をしている。金銭管理については、自己管理が困難な方はホームで預かるが、見守りだけで済む方もいる。預かり金は金銭出納帳に記載し、3ヶ月ごとに家族に確認してもらっている。また、日常生活、行事の様子を撮ったビデオを家族会場で上映している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問時に意見や要望など尋ねたり、意見箱を設置したり、家族会で意見を聞くなど工夫はしているが、出される意見や要望は少ない。そこで、毎年1回、アンケートを実施し、家族に入居者の満足度を押し量って回答してもらい、その結果を家族にフィードバックしてケアの質の維持に役立てている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、入居者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、入居者へのダメージを防ぐ配慮をしている	今年度は、開設当初の管理者や職員の異動があったが、運営者は職員を育てるとの方針と入居者との関係性を保った異動への配慮をしている。東西ユニット間の異動や隣接している支援センターへの異動であるため、異動した職員も何らかのかかわりを持ち、入居者との良好な関係を保っている。	○	東西のユニット間の職員異動は、入居者へのダメージを最小限に抑え、かつ、それぞれの入居者との馴染みの関係ができるので、外出や夜間緊急時に相互に協力して対応が取れるメリットがある。このメリットを活かして、職員の資質とサービスの質の向上を図っていくことにも期待したい。

グループホームあかり

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全職員で事業所としての一年間を振り返り、また職員一人ひとりとしても個人の振り返りをして年度の研修計画を立てている。勤務の調整をして、研修会に出やすく、資格取得しやすい体制をつくり、パート、常勤の区別なく全員が研修を受けることができるようになっている。内部研修は、同一法人の専門職の協力で実施している。今年度から、新人には1年間のプリセプター（指導担当）を付け、心身ともに安定した状態で環境に適応できるように教育・指導する方法を導入した。	○	新人職員に対して決められた先輩職員が1年間マンツーマンで教育・指導する方法であるプリセプターシップを導入したが、プリセプターとなった職員は、プリセプター計画や評価を手探りで行っている状態である。新人教育に有効であるかは今後を待つことになるが、プリセプターとなった職員は、プリセプターシップを発揮することで自己の成長を図ることができることを実感している。プリセプターとなる職員に対しての法人としての支援にも期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会主催の勉強会や講演会への参加を通して、県内のグループホーム同士で交流し、課題を共有することができる。困っていることを電話で相談しあえる関係ができたことで、ケアの悩みを共有することができ、サービスの改善の参考になっている。	○	4月から市内のグループホーム連絡会が発足し、同業者との交流や情報交換を行うことができるようになった。ホームではこのことを前向きに受け止めているので、市内のグループホームと連携してサービスの質の向上に取り組んでいくことを期待したい。
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の入居者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居相談の段階から本人にも家族と一緒にホームに来てもらい、話をしながらホームに慣れてもらっている。すでに入居している入居者と話すときは会話のきっかけを作るなど橋渡しをし、徐々に場の雰囲気に馴染めるようにしている。隣接するデイサービスセンターの利用者が入居する場合に、事前にホームのレクリエーションなどに参加してもらい、ホームに馴染んでから入居してもらった例もある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員はそれぞれの入居者の得意とすることを発揮する機会を用意し、入居者は様々な場面で達成感やみんなの役に立っていることを実感しており、職員はその時々感謝の気持ちを伝えていく。例えば使い捨てのペーパータオルはもったいないとの管理者の考え方を理解して、入居者が布の小さな手拭きをたくさん縫って用意してくれている。職員は面倒がらずに布の手拭きを消毒し再度使っている。衛生にも配慮しながら、入居者の協力で資源を無駄にしないエコロジーな生活を一般家庭のようにグループホームでも実践している。		

グループホームあかり

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	昨年からセンター方式のアセスメントを導入し、「その人らしさを大切に」をスローガンに職員全員で思いや意向の把握をしている。「顔のマッサージをしてくれる床屋に行きたい」「化粧品を買いに行きたい」「必要となったものがあるとき、そのつど近くの店に買いに行く」「散歩のついでに自宅に立ち寄る」「入浴も自分の都合で入る時間を決める」など暮らしていく中で希望を聞き取っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる入居者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員は介護記録や健康管理表に入居者に関する情報はどんなことでも書き込むことを基本にしている。その情報を介護計画作成担当者が介護計画に活かしている。入居者一人ひとりの思いや「その人らしさ」を大切に支援するために、管理者や介護計画作成担当者が家族の面会時に入居者の要望や家族の意見を聞き、更に朝夕のミーティングや毎月の勉強会の場で職員の意見を聞き、介護計画を作成している。	○	職員は入居者の「そのままの言葉」を具体的に介護記録に書いている。入居者の言葉を記録することでその時の場面が鮮明になっている。このことが、入居者の思い、主体性を大切にしたい計画につながるようになる。入居者本位の介護計画となるよう更なる努力を期待したい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は基本的に3ヶ月で見直しているが、朝夕の申し送りや介護記録などから判断して、日常の状態が変化した場合や入院の前後など状況が大きく変化するときには適宜変更している。ミーティングの際にサービス担当者会議の時間を設けて話し合い、その上で、面会などの時に家族の意見を聞き、介護計画を見直している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じた、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制加算の指定を受けており、法人のクリニックが入居者の健康維持と緊急時の対応に当たっている。この連携体制を家族は心強く感じている。また、ホームには看護師は配属されていないが、併設のデイサービスセンターや支援センターの看護師にも相談できる体制となっている。		

グループホームあかり

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の希望により、すべての入居者が同法人のクリニックを受診している。受診に際しては管理者が付き添い、医療情報の共有を図っている。整形外科や眼科、皮膚科等の受診は家族の付き添いを基本とし、受診後は報告を受けて記録し、特に注意を要する内容は申し送り等で職員に周知している。近所の歯科医が歯科検診や治療の便宜を図ってくれている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居者が重篤な状態になったり、終末期に入ったと判断される場合には、家族を交えて医師やホームの職員が話し合いをした上で、本人・家族の要望に添ってその後の方針を立てている。終末期もできるだけホームで過ごしたいという入居者には、ケア体制を厚くして、食事量や水分摂取量の確保を心がけ、穏やかに過ごしてもらうようにしている。	○	入居者の状態が重度化したり終末期を迎えた場合、介護職員の対応にも高度な知識と技量が要求されるので、ターミナルケアに的を絞った学習会の実施も期待される。また、いつまでホームで暮らせるかは、本人・家族とも重大な関心事と思われるので、今後とも、ホームでできることとできないこと、どのような医療・ケア対応がふさわしいか、を家族を交えた関係者で話し合っていく丁寧な姿勢を保っていくことを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	各居室の入り口は必ず閉めるように気をつけているが、開け放しにしがちな入居者もいるために、入居者の希望を確かめた上で、居室の入り口に暖簾を下げて目隠しする工夫をしている。トイレ誘導や口腔ケアのための声かけは、他の人に分からないように気をつけている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩が好きな方もいれば、外出を好まず室内で新聞を読んで過ごす方もいる。外出を好まない方にも押しつけでない程度に玄関のベンチに誘って外気に当たることができるようにするなど、一人ひとりの思いに添って支援している。新しく入居した方がホームの暮らしに馴染めるよう、職員はじっくり話を聞いたり、日頃の観察の中からその人の考えや思いをくみ取るようにしている。		

グループホームあかり

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、入居者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は職員による給食委員会が入居者の好みなどを勘案しながら決めている。昼食はデイサービスセンターの厨房で作られたものが運ばれてくるが、朝食と夕食は入居者に力を借りながら、ホームのキッチンで作っている。食事が単調にならないように、隣のコミュニティホールで食事を摂ったり、日曜日にはおやつバイキングや10種類位の料理を皆で用意して食事バイキングを実施している。中庭では野菜を栽培しており、とれたての野菜が食卓に上ることも多い。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一番風呂の好きな入居者には一番風呂を、仕舞い風呂を希望する入居者には最後の風呂を、という具合に一人ひとりの好みに応じた入浴を支援している。浴室・浴槽は少し大きめの家庭用のものでゆったりしている。入浴は、一人ずつ、入っている時間も長風呂、烏の行水、好きずきである。ゆったりした気分を味わってもらうため、また自立を損なわないために、介助は入居者の状態に応じて洗髪など必要な部分にとどめている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者それぞれの趣味や職歴、生活歴を把握して、ホームで好きなことができるよう支援している。書の得意な方には季節の歌の歌詞を書いてもらって壁掛けにしている。また、いつでも歌えるように歌詞カードを用意したり、縫い物、レース編み、畑の草むしり、食事の片付け、テーブル拭き等々、できること、やりたいことを自由にしてもらい、一人ひとりに賞状を贈って感謝や励ましの気持ちを伝えている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩やホームで飼っている犬の散歩の付き添い、ドライブ、食材の仕入れなど外出する機会が多い。また、職員体制を工夫しながら、入居者に希望を聞いて化粧品を買いに行ったり、自宅を見に行ったり、誕生日には外食を楽しんだり、幼なじみを訪ねたりと個別の要望に添った外出の支援をしている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	併設されているデイサービスセンターやコミュニティホールとの間には広いエントランス空間や畑のある中庭があり、入居者は自由に出入りをしている。時には敷地を出て独りで散歩に出る入居者もいるので、さりげない見守りをしながら入居者の行動に気を配っている。日中は玄関に鍵をかけていない。念のために出入りを知らせるセンサー式チャイムを設置し、常に稼働させているわけではないが必要に応じて使っている。		

グループホームあかり

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず入居者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、入居者を交えた避難訓練を実施している。それぞれ漫然とした訓練ではなく、併設デイサービスセンターが火元の想定であったり、夜間に夜勤職員2人ですべての入居者を避難させる想定など、テーマを決めて訓練を実施している。また、近隣の協力を仰ぐために、普段から説明と挨拶まわりをしている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	給食委員会が立てる普段の献立については、法人の老人保健施設の管理栄養士に点検・指導してもらっている。水分摂取や食事内容、食事量に注意を要する入居者に関しては、職員が情報を共有した上で、記録をとりながら注意を払って食事提供をしている。朝・夕の調理を担当するのは介護職員であり、栄養や調理上の留意点を学習会で学ぶことによって、間違いが起らないよう気をつけている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、入居者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の「私たちは幼稚園児じゃないわ」との声を受けて、共有空間の飾り付けは生花、観葉植物、山野草の鉢植え、金魚の水槽など、季節感の感じられる落ち着いた雰囲気での飾り付けを行っている。食堂以外にも和室やソファが置いてある廊下の突き当たりの談話スペース、玄関先のベンチ、ウッドデッキなど、入居者のその時々で過ごせる空間や仕掛けがふんだんに取り入れられている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれの居室の入り口には飾り棚が作り付けられており、入居者の手によって季節の花々が途切れることなく飾られている。花器は入居者が好きなものを選んでるので、一つとして同じものではなく、花の取り合わせもバラエティーに富んでいて、入居者それぞれの個性が表れている。部屋にはテーブルやたんす、テレビなどが持ち込まれ、手作りの作品や写真、ホームからの感謝状などを飾っている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。